

平成 26 年度北海道地方発明表彰(授賞式)

日本弁理士会長賞受賞

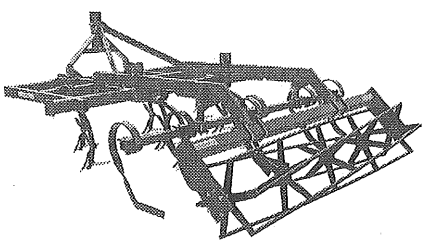
ヘビーカルチのローラユニットで

石村鉄工
北海道地方発明表彰
混和させ、耕盤をつくら
ない』のが特徴。
フレームと振動タイ
ンのシンプル構造であり
ながら頑丈。タイヤは特
殊なバネ鋼なので、硬い
耕地や石の多い耕地でも

石村鉄工
『表層土を
る作業機で
地・碎土す
後で全面整
業深15cm前
ルチは、作
ルチは、作
ルチは、作

78・石村
聡英社長
の粗碎土機
ヘビー・カ
ルチは、作
ルチは、作
ルチは、作

(株)石村鉄
工北海道
上川郡美瑛
町扇町
0166
(92)22
78・石村
聡英社長
の粗碎土機
ヘビー・カ
ルチは、作
ルチは、作
ルチは、作



乾田・湿田ローラユニットで水田・
湿地で泥は詰まらず快適作業
航ノースラン
ド帯広で表彰
された。同協
会では、「畑
で使用するケ
ーシ・ローラ
に代替しての
使用が可能。
両端部に回転
軸を設け、複
数の回転体を
具備。各回転

シエアボルトなしで作業
出来るのも利点で特に凹
凸や石の多い畑に最適
だ。
その爪間3列タイプの
Triシリーズの乾田
・湿田専用機VSIK
T10Sは、独自開発した
泥が詰まらない非駆動の
スター型ケーシタイプで
ある乾田・湿田用ローラ

ユニット(特許第146
4758号)を標準装備。
スムーズに作業できるこ
とから道内外の稲作農家
から注目を集めている。
そうした中で、そのロ
ーラユニットが、(一社)
北海道発明協会の平成26
年北海道地方発明表彰で
日本弁理士会会長奨励賞
を受賞。24日にホテル日

体は径方向に延出する複
数の放射線部が配設した
ことで、側面視略星形を
形成。それらは隣接する
各回転体の間で一枚ごと
に角度をつけながら配置
するとともに、チューブ
バーにより対応する放射
線状部の先端同士が連続
結。この配置により本品
はねじれが加わった。こ
れにより水田など土壌に
湿気を帯びた土のローラ
ー詰まりや糞などの絡み
を軽減し、碎土・整地作
業を効率的に行うことを
可能とした。また非駆動
により燃料費削減を図る
ことができる他、土壌の
過剰碎土を防止し通気性
を保持するなどメリット
が期待できる」と高く評
価した。

農機新聞(平成 26 年 10 月 28 日)



平成 26 年度北海道地方発明表彰(授賞式)

